

力合わせ 医療ガウン製作

新庄市、作業場を無償貸与

新庄市新型コロナウイルス感染症対策本部（本部長・山尾順紀市長）は、国から医療用ガウンの製作を依頼された市内の業者に市所有施設の市農村環境改善センターを仕事場として無償貸与した。従業員は「医療従事者の力に少しでもなれば」と、6月下旬から懸命に作業を続けている。

◆ ◆ ◆
この会社は婦人・子ども用衣料などの縫製加工を手掛ける「スリーエム」（監物雄一郎社長）。今春、国からの医療用ガウン製作依頼を取引商社を通じて受けた。「尽力する医療関係者にぜひ協力したい」という監物社長の思いは強く、雇用確保にもつながることから快諾した。

感染予防を徹底するため、本社と別の場所で作業することを希望し、市に相談。その結果、対策本部がぜひ力になりたいと同センターの無償貸与を決めた。6月20日に体育館（約6300平方メートル）を使って作業がスタート。女性を中心に、全従業員の約25%に当たる40人前後が裁断、縫製、製品点検、荷造りなどさまざまな業務に当た

従事者支援 市内業者、年内30万着めざす



体育館を作業場にして、医療用ガウンの製作に励む大勢の従業員
＝新庄市農村環境改善センター

つている。
ガウンは不織布が素材の白色で、全体の丈は140センチほど。年内に計30万着を作るのが目標だ。ミシンを操る三上優子さん（62）＝

金山町＝は「きれいに仕上げることを心掛けています。大変な仕事をこなす医療関係者の力になれることを光栄に思う」と話した。

（斎藤敏広）